長いほのおがとび出しました。そのために、にげかけていたハトは、たちまち二つのつばさをまっ黒に焼きこがされてしまいました。ハトはびっくりして、すぐにそばにあった高い木の先へとまりました。そうするとナガナガは、たちまちスルスルと体をのばして、そのハトをひょいと両手でつかまえてしまいました。ハトはしかたなしに、もとの王女のすがたになって、ナガナガに連れられて、お部屋へ帰りました。そんなことはちっとも知らないで、グウグウねていた王子は、ナガナガにゆり起こされて、ビックリして目をさました。こんなわけで、王女はとう

とう、そのばんは、にげ出すことが
できませんでした。あくる朝王さま
は王子がちゃんと王女の番をして、
昨夜のまま、お部屋にすわっている
のを見て、ビックリなさいました。
しかし、ともかく、王女をにがさな
いでひとばん中、番をしたのですか
ら、どうするわけにもいきません。
王さまはしかたなしに、王子たちを
ていねいにおもてなしになって、そ